

会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第 4 回 市立川西病院経営評価委員会		
事務局 (担当課)		総合政策部 病院改革推進課		
開催日時		令和 2 年 7 月 13 日(月) 13時30分～15時30分		
開催場所		川西市役所 4 階庁議室		
出席者	委員	邊見委員、播間委員、成田委員、田辺委員、宮本委員		
	その他	指定管理者 南看護部長、清水事務部長、沖企画課長代理		
	事務局	作田理事、塩川課長、清原課長、藤本		
傍聴の可否		不可	傍聴者数	一名
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		当委員会の意思決定等において、独立性及び自立性を尊重しなければならない情報を公開することにより、委員会の公正な判断が妨げられる恐れがあるため。		
会議次第		1. 開会 2. 議事 (1)市立川西病院の管理運営状況の報告 (2)市民モニター会議の報告 (3)指定管理者モニタリングの報告 (4)最終評価について (5)最終答申について (6)その他 3. 閉会		
会議結果		別紙会議要旨のとおり。		

市立川西病院経営評価委員会(第4回) 会議要旨

日時:令和2年7月13日(月) 午後1時30分～

場所:川西市役所4階庁議室

1 指定管理者から管理運営状況の報告について

資料 1「2019 年度 運営状況」、資料 2「常勤職員数」、資料 3「2019 年度 月別収支」に沿って、令和元年度を包括した管理運営状況と、令和 2 年度の管理運営状況について、指定管理者から説明。

指定管理者: 資料 1-1 にある、1 日平均患者数の推移だが、入院患者数は平成 30 年度の年間平均が 156.0 人、令和元年度の年間平均が 127.1 人で、1 日あたり 28.9 人減少している。患者数の増える 2 月から 3 月にかけて、新型コロナウイルス感染症の流行による影響もあり、例年に無いような減少傾向にあった。また、外来患者数は、平成 30 年度の年間平均が 395.0 人、令和元年度の年間平均が 348.5 人で、1 日あたり 46.5 人減少している状況である。外来も入院同様新型コロナウイルス感染症の流行の影響を受けており、1 月から 3 月にかけて患者数が減少している。

資料 1-2 にある診療科別 1 日当たり患者数について、入院の内科、外科、整形外科、緩和ケア外科が、平成 30 年度に比べ大きく減少している。これは各科の医師の退職が影響している。外来に関しても、入院と同様に減少している。

資料 1-3 にある救急患者数について、小児救急は平成 30 年度と比べほぼ横ばいだが、内科等小児科以外の科の減少により、年間で 297 人減少している。

手術等の件数については、新型コロナウイルス感染症の流行による不急の手術を控えた事もあり、年間で 181 人減少している。

紹介率と逆紹介率は増加傾向にあるが、患者数が増加した訳ではないため、患者獲得を目指す。

病棟編成については依然として 4 階北病棟が休床している。また診療報酬改定に伴い 5 階北病棟の緩和ケア病棟入院料 1 を 2 に変更している。

資料 2 にある常勤職員数については、様々な手段を講じた結果、2019 年度の 4 月 1 日時点と 2020 年度の 4 月 1 日時点を比較すると、医師 7 人、看護職員 9 人、医療技術職員 5 人、事務職員 2 人の計 23 人が増員となっている。

資料 3 の令和元年度月別収支について、収支計画では 5 億円程のマイナスの想定だったのが、マイナス 7 億 5,600 万円程になった。理由としては、休床中の病棟の再開が出来なかったこと、新型コロナウイルス感染症の流行により患者が減少したこと、夏季賞与の負担をしたこと等があげられる。

委員 長： 本来であれば 1 月～3 月は患者数が増える傾向にあるが、今年は新型コロナウイルス感染症の流行による影響で、どこの病院も患者数が減少している。今回に関しては特殊な状況下なので、前回の 11 月までの実績よりも、更に経営状況が厳しいことに関しては、致し方ないと感じる。

委員 長： 緩和ケア病棟入院料 1 算定時の精神科医は非常勤だったのか。

指定管理者： 専任ではなく非常勤だった。診療報酬改定の際に精神科医が専任であることが求められたため、算定入院料を変更した。

2 市民モニター会議の報告について

資料 4「市立川西病院市民モニター会議(第 4 回)会議要旨」に沿って、事務局から説明。

委員 員： PR が少ないと指摘を受けているが、今後何か計画していることはあるのか。

指定管理者： 以前から指摘されているホームページは、トップページのレイアウトの見直し等、更新している事を印象付けていこうと考えている。また、開業医向けに地域医療連携だよりを発行・配布しており、通年で続けていく計画をしている。

委員 員： 市民モニター会議で、看護体制 7 対 1 について関心が高いみたいだが、何故か。

指定管理者： 市立川西病院の管理運営に関する基本協定書に、市の直営時の看護体制 7 対 1 を維持することが謳われている。5 月に 7 対 1 から 10 対 1 に変更した際、7 対 1 に戻すのはいつなのかという意見が市民モニター会議で出ており、年間通じて関心の高い項目となった。経営判断としては、患者数の増加と十分な看護職員数の確保が出来て、休床中の病棟を再開した後、看護体制を 7 対 1 に回復させたいと考えている。

3 指定管理者モニタリングの報告について

資料 5「市立川西病院 指定管理者モニタリング チェック表」に沿って、指定管理者と事務局から説明。

4 最終評価について

5 最終答申について

資料 6「中間答申・中間評価」を基に、中間報告時からの変更点について意見交換。

委員 長： 病院運営は、新型コロナウイルス感染症対策の影響により、どの病院も患者数や手術件数の減少によって、経営が悪化していると聞いている。診療報酬の臨時的措置により今後少しは改善するとは思いますが、依然厳しい経営状況が続くと想定される。今回の新型コロナウイルス感染症の流行による経営悪化は一種の災害であり、全てを指定管理者の運営責任に帰すのは酷だと考える。今後取られるであろう地方財政措置を参考にし、社会的基盤施設を整備する市の設置者責任を踏まえた一定の経営支援が必要と考える。

委員 長： 将来必ず人口が減少するので、医師の確保が出来ていることや、ベトナム人介護職員を採用していることは、長期的に見ても良いことだと思う。また、PFM(患者支援センター)をしっかりと機能させるため、業務に精通する職員の育成を行っていることは評価できる。今後の病院経営は、市単位で治療を完結させるという考え方が基本になると思うので、退院調整だけではなく、地域医療との繋がりを考慮しつつ、しっかりとした計画の入院調整を充実させる事が必要である。その他、これからはオンライン診療等の IT 化が進んでいくので、その対応も必要であると思う。

委員 員： 評価の対象は、指定管理者による1年間の経営について評価すべきなのか、指定管理者制度を導入したことによる、市の直営時と比較した医療の提供について評価すべきなのか、どちらか。

委員 員： 経営評価委員会では、純粹に指定管理者による1年間の経営について評価すべきではないか。

委員 員： 個人的な印象としては、アピールの問題もあるとは思いますが、市民の感情としては指定管理者制度導入後に、病院が良くなっているという実感が無い中で、引き継いだ後の経営を頑張っているという事だけを評価するのは、疑問が残るのではないか。

委員 長： 新病院完成時に最終的な評価をするしかないと思う。現在は、新病院完成までの過渡期であり、現段階では落ち込んでいる経営を食い止めるという事が役目であり、中期的に評価をすべきである。短期的に評価をするととなると、どこの公立病院も厳しい評価にしなければならない。

委員： 事業計画との比較をせずに、この結果を公表した場合、市民にはどういう風に受け止められるのか。

委員： 今回は新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり、どこの病院も経営が悪化している中、数字だけで評価するのは困難と考える。

委員： 一般的な話として、手術を先送りした患者が沢山いると聞いているが、ここ最近も手術件数が増えている印象が無いが、何処へいったのか。

委員長： 現在は他院でも手術を先送りした患者の手術を少しずつ再開しているものの、外来診療の自粛や検査が出来ない影響で、新規の患者が減っているため、当面の間は入院患者数や手術件数は増えない。今回の新型コロナウイルス感染症の流行は、関連する全ての機関に悪影響をもたらしている。

委員： 外来診療の自粛などで、重症化してから来院する患者が多くなったと聞いているが、実際のところはどうか。

指定管理者： 入院患者数や手術件数は6月中旬から7月にかけて増えてきている。特に耳鼻科手術や内視鏡が増えてきている印象がある。感染症対策をしっかりとしたうえで、重症化する前に受診をしていただくように声かけをしている。

委員長： 全国的に耳鼻科や歯科、口腔外科の手術や内視鏡は7割くらい減っていた。これから少しずつ回復してくると思われる。

委員長： 看護体制7対1への回復と4階北病棟の再開が出来ていない点については気になる点ではあるが、診療報酬上も看護体制7対1と10対1の差があまりなくなってきた事を考えれば、経営的にも無理に7対1を目指すより、4階北病棟の再開を優先したいという指定管理者の意見も理解できる。今回に関しては新病院が出来までの中間的な評価でもあるので、このことがあまりマイナスにはならないのではないかと考えている。

委員： 今の状況下で、プラスになる病院は無いと思うので、出来ることはしっかりと出来ていると思う。

事務局： 中間報告では経営状況点数が 5 点だった。前回以降、更に経営状況は悪化しているが、こちらの点数も変更なしでよろしいか。

委員長： 点数は変更なしで、新型コロナウイルス感染症の流行状況を加味するという但し書きをつけてはどうか。

<異議なし>

委員長： それでは、他にご意見もないようなので、内容について中間答申から大きな変更はなしとし、文言等については委員長が事務局と協議してまとめるということでよろしいか。

<異議なし>

委員長： それでは、そのようにします。

6 閉会

事務局： 資料 7 と 8 は、参考として配布しているので、また確認しておいて欲しい。

事務局： 今年度の委員会は、今回を含めて 2 回を予定している。
次回は、令和 2 年度の中間報告として、年始を目途に開催予定としている。日程については、改めて調整する。